

# 定期積金(スーパー積金)規定

新・旧対照表 ※赤字アンダーラインが改正箇所

令和2年4月一部改正

| 改正後   | 現 行  |
|---|--|
| <p style="text-align: center;"><b>定期積金(スーパー積金)規定</b></p> <p><b>第1条 掛金の払込み</b><br/>定期積金(以下「この積金」といいます。)は証書または総合口座定期積金・担保明細(以下、「証書」に含みます)記載の払込日に掛金を払込みください。払込みのときは必ず証書をお差出しください。</p> <p><b>第2条 証券類の受入れ</b><br/>(1)小切手その他の証券類を受入れたときは、その証券類が決済された日を払込日とします。<br/>(2)受入れた証券類が不渡りとなったときは、掛金になりません。不渡りとなった証券類は証書の当該払込み記載を取消したうえ、当店で返却します。</p> <p><b>第3条 給付契約金の支払時期</b><br/>この積金は、証書記載の満期日以後に給付契約金を支払います。</p> <p><b>第4条 払込みの遅延</b><br/>この積金の払込みが遅延したときは、満期日を遅延期間に相当する期間繰延べます。または証書記載の年利回(年365日の日割計算)により遅延期間に相当する利息をいただきます。</p> <p><b>第5条 給付補填金等の計算</b><br/>(1)この積金の給付補填金は、証書記載の給付契約金と掛金総額の差額により計算します。<br/>(2)約定どおり払込みが行われなかったときは、次により利息相当額を計算します。<br/>①この積金の契約期間中に証書記載の掛金総額に達しないときは、払込日から満期日の前日(解約日が満期日の翌日以後の場合は解約日の前日)までの期間について、次の第3号の利率によって計算し、この積金の掛金残高相当額とともに支払います。<br/>②当金庫がやむを得ないものと認めて満期日前の解約をするときおよび第9条第3項の規定により解約するときは、払込日から解約日の前日までの期間について、次の第3号の利率によって計算し、この積金の掛金残高相当額とともに支払います。<br/>③第1号、第2号の計算に適用する利率は次のとおりとします。<br/>A. 初回払込日から第1号の場合は満期日、第2号の場合は解約日までの期間が1年未満のもの。<br/>解約日における普通預金利率<br/>B. 初回払込日から第1号の場合は満期日、第2号の場合は解約日までの期間が1年以上のもの。<br/>約定年利回×60%(小数点第3位以下は切捨て、この計算による利率が解約日における普通預金利率を下回る場合は普通預金利率とします。)<br/>④この計算の単位は100円とします。</p> <p><b>第6条 先払割引金の計算等</b><br/>(1)この積金の掛金が払込日前に払込まれたときは、先払割引金を証書記載の利回に準じて満期日に計算します。<br/>(2)先払分に応じて満期日の繰上げは行いません。</p> <p><b>第7条 満期日以後の利息</b><br/>この積金を満期日後に解約する場合、給付契約金(掛金総額に達しないときは掛金残高相当額)に満期日から解約日の前日までの期間について、解約日における普通預金利率によって計算した利息を支払います。</p> <p><b>第8条 反社会的勢力との取引拒絶</b><br/><u>この積金は、第9条第4項第2号、第5項第1号AからE および第2号AからEのいずれかに該当する場合、または自らもしくは第三者を利用して第5項第2号のいずれかに該当する行為をした場合には利用することができず、この場合には、当金庫はこの積金の契約をお断りするものとします。</u></p> <p><b>第9条 解約</b><br/>(1)この積金は、当金庫がやむを得ないと認める場合を除き、満期日前に解約することはできません。<br/>(2)この積金を解約するときは、当金庫所定の署名欄へ届出の印章により記名押印して証書および通帳(定期性総合口座通帳利用の場合)とともに提出してください。<br/>(3)前項の解約手続に加え、当該積金の解約手続を行うことについて正当な権限を有することを確認するための本人確認書</p> | <p style="text-align: center;"><b>定期積金(スーパー積金)規定</b></p> <p><b>1.(掛金の払込み)</b><br/>定期積金(以下「この積金」といいます。)は証書<u>追 加</u>記載の払込日に掛金を払込みください。払込みのときは必ず証書をお差出しください。</p> <p><b>2.(証券類の受入れ)</b><br/>(1)小切手その他の証券類を受入れたときは、その証券類が決済された日を払込日とします。<br/>(2)受入れた証券類が不渡りとなったときは、掛金になりません。不渡りとなった証券類は証書の当該払込み記載を取消したうえ、当店で返却します。</p> <p><b>3.(給付契約金の支払時期)</b><br/>この積金は、<u>追 加</u>満期日以後に給付契約金を支払います。</p> <p><b>4.(払込みの遅延)</b><br/>この積金の払込みが遅延したときは、満期日を遅延期間に相当する期間繰延べます。または証書記載の年利回(年365日の日割計算)により遅延期間に相当する利息をいただきます。</p> <p><b>5.(給付補填金等の計算)</b><br/>(1)この積金の給付補填金は、証書記載の給付契約金と掛金総額の差額により計算します。<br/>(2)約定どおり払込みが行われなかったときは、<u>つぎ</u>により利息相当額を計算します。<br/>①この積金の契約期間中に証書記載の掛金総額に達しないときは、払込日から満期日の前日(解約日が満期日の翌日以後の場合は解約日の前日)までの期間について、<u>つぎ</u>の③の利率によって計算し、この積金の掛金残高相当額とともに支払います。<br/>②当金庫がやむを得ないものと認めて満期日前の解約をするときおよび第9条第3項の規定により解約するときは、払込日から解約日の前日までの期間について、<u>つぎ</u>の③の利率によって計算し、この積金の掛金残高相当額とともに支払います。<br/>③上記①、②の計算に適用する利率は<u>つぎ</u>のとおりとします。<br/>A.初回払込日から①の場合は満期日、②の場合は解約日までの期間が1年未満のもの。<br/>解約日における普通預金利率<br/>B.初回払込日から①の場合は満期日、②の場合は解約日までの期間が1年以上のもの。<br/>約定年利回×60%(小数点第3位以下は切捨て、この計算による利率が解約日における普通預金利率を下回る場合は普通預金利率とします。)<br/>④この計算の単位は100円とします。</p> <p><b>6.(先払割引金の計算等)</b><br/>(1)この積金の掛金が払込日前に払込まれたときは、先払割引金を証書記載の利回に準じて満期日に計算します。<br/>(2)先払分に応じて満期日の繰上げは行いません。</p> <p><b>7.(満期日以後の利息)</b><br/>この積金を満期日後に解約する場合、給付契約金(掛金総額に達しないときは掛金残高相当額)に満期日から解約日の前日までの期間について、解約日における普通預金利率によって計算した利息を支払います。</p> <p><b>8.(反社会的勢力との取引拒絶)</b><br/>この積金は、第9条第3項第1号、第2号AからFおよび第3号AからEのいずれにも該当しない場合に利用することができ、第9条第3項第1号、第2号AからFまたは第3号AからEの一にでも該当する場合には、当金庫はこの積金の契約をお断りするものとします。</p> <p><b>9.(解約)</b><br/><u>追 加</u><br/>(1)この積金を解約するときは、当金庫所定の<u>払戻請求書</u>に届出の印章により記名押印して証書<u>追 加</u>とともに提出してください。<br/>(2)前項の解約手続に加え、当該積金の解約手続を行うことについて正当な権限を有することを確認するための本人確認書</p> |

類の提示等の手続を求めることがあります。この場合、当金庫が必要と認めるときは、この確認ができるまでは解約手続を行いません。

(4) 次の各号の一にでも該当し、この積金を継続することが不適切である場合には、当金庫はこの積金取引を停止し、または積金契約者に通知することによりこの積金を解約することができるものとします。

①この積金名義人が存在しないことが明らかになった場合または積金口座の名義人の意思によらず開設されたことが明らかになった場合

②この積金契約者が契約申込時にした表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明した場合

③この積金の預金者が第14条第1項に違反した場合

④この積金が法令や公序良俗に反する行為に利用され、またはそのおそれがあると認められる場合

⑤当金庫が法令で定める本人確認等の確認を行うにあたって預金者について確認した事項または第16条第1項もしくは第3項にもとづき預金者が回答または届出が虚偽であることが明らかになった場合

⑥この積金がマネー・ローンダリング、テロ資金供与、経済制裁関連法令等に抵触する取引に利用され、またはそのおそれがあると合理的に認められる場合

(5) 次の各号の一にでも該当し、預金者との取引を継続することが不適切である場合には、当金庫はこの積金取引を停止し、または積金契約者に通知することによりこの積金を解約することができるものとします。なお、この解約によって生じた損害については、当金庫は責任を負いません。また、この解約により当金庫に損害が生じたときは、その損害額を支払ってください。

①預金者が、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過していない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者(以下これらを「暴力団員等」と言う)に該当し、またはいずれかに該当したことが判明した場合

A. 暴力団員等が経営を支配していると認められる関係を有すること

B. 暴力団員等が経営に実質的に関与していると認められる関係を有すること

C. 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を加える目的をもってするなど、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること

D. 暴力団員等に対して資金等を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること

E. 役員または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること

②積金契約者が自らまたは第三者を利用して次のいずれか一つでも該当する行為をした場合

A. 暴力的な要求行為

B. 法的な責任を超えた不当な要求行為

C. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為

D. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて当金庫の信用を毀損し、または当金庫の業務を妨害する行為

E. その他前AからDに準ずる行為

(6)前項で通知により解約する場合、到達のいかんにかかわらず、当金庫が解約の通知を届出のあった氏名、住所にあてて発信した時に解約されたものとします。

(7) この預金が当庫が定める一定の期間、預金者による利用がなく、かつ残高が一定の金額を超えることがない場合には、当金庫はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。法令にもとづく場合にも同様とします。

(8) 前項によりこの積金が解約され掛込残高がある場合には、証書および届出印の印章を持参のうえ、当店に申出てください。この場合、当金庫は相当の期間をおき、必要な書類等の提出または保証人を求めることがあります。

#### **第10条 届出事項の変更、証書の再発行等**

(1) 個人のこの積金の取引において、証書や印章を失ったとき、または印章、名称、住所その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって当店に申出てください。

(2) 前項の印章、名称、住所その他の届出事項の変更の届出前に生じた損害については、当金庫に過失がある場合を除き、当金庫は責任を負いません。

(3) 個人以外のこの積金の取引において、証書や印章を失ったとき、または印章、名称、住所その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって当店に申出てください。この届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

(4) 証書または印章を失った場合のこの積金の給付契約金等の支払いまたは証書の再発行は、当金庫所定の手続をした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また保証人を求めることがあります。

(5) 証書を再発行(汚損等による再発行を含みます。)する場合には、当金庫所定の手数料をいただきます。

類の提示等の手続を求めることがあります。この場合、当金庫が必要と認めるときは、この確認ができるまでは解約手続を行いません。

(3) 次の各号の一にでも該当し、この積金を継続することが不適切である場合には、当金庫はこの積金取引を停止し、または積金契約者に通知することによりこの積金を解約することができるものとします。

①積金契約者が契約申込時にした表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明した場合

②積金契約者が、次のいずれかに該当したことが判明した場合

A. 暴力団

B. 暴力団員

C. 暴力団準構成員

D. 暴力団関係企業

E. 総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等

F. その他前各号に準ずる者

③積金契約者が、自らまたは第三者を利用して次の各号に該当する行為をした場合

A. 暴力的な要求行為

B. 法的な責任を超えた不当な要求行為

C. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為

D. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて当金庫の信用を毀損し、または当金庫の業務を妨害する行為

E. その他前各号に準ずる行為

追 加

追 加

(4) 前項によりこの積金が解約され掛込残高がある場合には、証書および届出印の印章を持参のうえ、当店に申出てください。この場合、当金庫は相当の期間をおき、必要な書類等の提出または保証人を求めることがあります。

#### **10.(届出事項の変更、証書の再発行等)**

(1) 個人のこの積金の取引において、証書や印章を失ったとき、または印章、名称、住所その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって当店に申出てください。

(2) 前項の印章、名称、住所その他の届出事項の変更の届出前に生じた損害については、当金庫に過失がある場合を除き、当金庫は責任を負いません。

(3) 個人以外のこの積金の取引において、証書や印章を失ったとき、または印章、名称、住所その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって当店に申出てください。この届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

(4) 証書または印章を失った場合のこの積金の給付契約金等の支払いまたは証書の再発行は、当金庫所定の手続をした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また保証人を求めることがあります。

(5) 証書を再発行(汚損等による再発行を含みます。)する場合には、当金庫所定の手数料をいただきます。

### 第11条 成年後見人等の届出

- (1)家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合には、直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を届出てください。預金者の成年後見人等について、家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合も同様にお届け下さい。
- (2)家庭裁判所の審判により、任意後見監督人の選任がなされた場合には、直ちに書面によって任意後見人の氏名その他必要な事項を届出てください。
- (3)すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見監督人の選任がなされている場合にも、前2項と同様に、直ちに書面によって届出てください。
- (4)前3項の届出事項に取消または変更等が生じた場合にも同様に、直ちに書面によって届出てください。
- (5)前4項の届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

### 第12条 印鑑照合

証書、払戻請求書、諸届その他の書類に使用された印影を届出の印鑑と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認めて取扱いましたうえは、それらの書類につき偽造、変造その他の事故があってもそのために生じた損害については、当金庫は責任を負いません。なお、個人のこの積金の取引において、積金契約者は、盗取された証書を用いて行われた不正な支払いの額に相当する金額については、次条により補てんを請求することができます。

### 第13条 盗難証書による払戻し等

- (1)個人のこの積金の取引において、盗取された証書を用いて行われた不正な払戻し（以下、本条において「当該払戻し」という。）については、次の各号のすべてに該当する場合、積金契約者は当金庫に対して当該払戻しの額およびこれにかかる給付補填金等に相当する金額の補てんを請求することができます。
  - ①証書の盗難に気づいてからすみやかに、当金庫への通知が行われていること
  - ②当金庫の調査に対し、積金契約者より十分な説明が行われていること
  - ③当金庫に対し、警察署に被害届を提出していることその他の盗難にあったことが推測される事実を確認できるものを示していること
- (2)前項の請求がなされた場合、当該払戻しが積金契約者の故意による場合を除き、当金庫は、当金庫への通知が行われた日より30日(ただし、当金庫に通知することができないやむを得ない事情があることを積金契約者が証明した場合は、30日にその事情が継続している期間を加えた日数とします)前の日以降になされた払戻しの額およびこれにかかる給付補填金等に相当する金額（以下「補てん対象額」といいます。）を前条本文にかかわらず補てんするものとします。ただし、当該払戻しが行われたことについて、当金庫が善意無過失であることおよび積金契約者に過失(重過失を除く)があることを当金庫が証明した場合には、当金庫は補てん対象額の4分の3に相当する金額を補てんするものとします。
- (3)前2項の規定は、第1項にかかる当金庫への通知が、証書が盗取された日(証書が盗取された日が明らかでないときは、盗取された証書を用いて行われた不正な解約による払戻しが行われた日) から、2年を経過する日以後に行われた場合には、適用されないものとします。
- (4)第2項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当することを当金庫が証明した場合には、当金庫は補てんしません。
  - A. 当該払戻しが行われたことについて当金庫が善意かつ無過失であり、かつ、次のいずれかに該当すること
  - B. 積金契約者の配偶者、二親等内の親族、同居の親族その他の同居人、または家事使用人によって行われたこと
  - C. 積金契約者が、被害状況についての当金庫に対する説明において、重要な事項について偽りの説明を行ったこと
- ②証書の盗取が、戦争、暴動等による著しい社会秩序の混乱に乗じまたはこれに付随して行われたこと
- (5)当金庫が当該積金について積金契約者に払戻しを行っている場合には、この払戻しを行った額の限度において、第1項にもとづく補てんの請求に応じることはできません。また、積金契約者が、当該払戻しを受けた者から損害賠償または不当利得返還を受けた場合も、その受けた限度において同様とします。
- (6)当金庫が第2項の規定にもとづき補てんを行った場合に、当該補てんを行った金額の限度において、当該積金にかかる払戻請求権は消滅します。
- (7)当金庫が第2項の規定により補てんを行ったときは、当金庫は、当該補てんを行った金額の限度において、盗取された証書により不正な解約による払戻しを受けた者その他の第三者に対して積金契約者が有する損害賠償請求権または不当利得返還請求権を取得するものとします。

### 第14条 譲渡、質入れの禁止

- (1)この積金は、当金庫の承諾なしに譲渡、質入れはできません。
- (2)当金庫がやむをえないものと認めて質入れを承諾する場合には、当金庫所定の書式により行います。

### 11.(成年後見人等の届出)

- (1)家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合には、直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を届出てください。追加
- (2)家庭裁判所の審判により、任意後見監督人の選任がなされた場合には、直ちに書面によって任意後見人の氏名その他必要な事項を届出てください。
- (3)すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見監督人の選任がなされている場合にも、前2項と同様に、直ちに書面によって届出てください。
- (4)前3項の届出事項に取消または変更等が生じた場合にも同様に、直ちに書面によって届出てください。
- (5)前4項の届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

### 12.(印鑑照合)

追加 払戻請求書、諸届その他の書類に使用された印影を届出の印鑑と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認めて取扱いましたうえは、それらの書類につき偽造、変造その他の事故があってもそのために生じた損害については、当金庫は責任を負いません。なお、個人のこの積金の取引において、積金契約者は、盗取された証書を用いて行われた不正な支払いの額に相当する金額については、次条により補てんを請求することができます。

### 13.(盗難証書による払戻し等)

- (1)個人のこの積金の取引において、盗取された証書を用いて行われた不正な払戻し（以下、本条において「当該払戻し」という。）については、次の各号のすべてに該当する場合、積金契約者は当金庫に対して当該払戻しの額およびこれにかかる給付補填金等に相当する金額の補てんを請求することができます。
  - ①証書の盗難に気づいてからすみやかに、当金庫への通知が行われていること
  - ②当金庫の調査に対し、積金契約者より十分な説明が行われていること
  - ③当金庫に対し、警察署に被害届を提出していることその他の盗難にあったことが推測される事実を確認できるものを示していること
- (2)前項の請求がなされた場合、当該払戻しが積金契約者の故意による場合を除き、当金庫は、当金庫への通知が行われた日の30日(ただし、当金庫に通知することができないやむを得ない事情があることを積金契約者が証明した場合は、30日にその事情が継続している期間を加えた日数とします。)前の日以降になされた払戻しの額およびこれにかかる給付補填金等に相当する金額（以下「補てん対象額」といいます。）を前条本文にかかわらず補てんするものとします。ただし、当該払戻しが行われたことについて、当金庫が善意無過失であることおよび積金契約者に過失(重過失を除く)があることを当金庫が証明した場合には、当金庫は補てん対象額の4分の3に相当する金額を補てんするものとします。
- (3)前2項の規定は、第1項にかかる当金庫への通知が、証書が盗取された日(証書が盗取された日が明らかでないときは、盗取された証書を用いて行われた不正な解約による払戻しが行われた日。) から、2年を経過する日以後に行われた場合には、適用されないものとします。
- (4)第2項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当することを当金庫が証明した場合には、当金庫は補てんしません。
  - A. 当該払戻しが行われたことについて当金庫が善意かつ無過失であり、かつ、次のいずれかに該当すること
  - B. 積金契約者の配偶者、二親等内の親族、同居の親族その他の同居人、または家事使用人によって行われたこと
  - C. 積金契約者が、被害状況についての当金庫に対する説明において、重要な事項について偽りの説明を行ったこと
- ②証書の盗取が、戦争、暴動等による著しい社会秩序の混乱に乗じまたはこれに付随して行われたこと
- (5)当金庫が当該積金について積金契約者に払戻しを行っている場合には、この払戻しを行った額の限度において、第1項にもとづく補てんの請求に応じることはできません。また、積金契約者が、当該払戻しを受けた者から損害賠償または不当利得返還を受けた場合も、その受けた限度において同様とします。
- (6)当金庫が第2項の規定にもとづき補てんを行った場合に、当該補てんを行った金額の限度において、当該積金にかかる払戻請求権は消滅します。
- (7)当金庫が第2項の規定により補てんを行ったときは、当金庫は、当該補てんを行った金額の限度において、盗取された証書により不正な解約による払戻しを受けた者その他の第三者に対して積金契約者が有する損害賠償請求権または不当利得返還請求権を取得するものとします。

### 14.(譲渡、質入れの禁止)

- (1)この積金は、当金庫の承諾なしに譲渡、質入れはできません。
- (2)当金庫がやむをえないものと認めて質入れを承諾する場合には、当金庫所定の書式により行います。

### 第15条 保険事故発生時における積金契約者からの相殺

- (1)この積金は、満期日が未到来であっても、当金庫に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、当金庫に対する借入金等の債務と相殺する場合に限り当該相殺額について期限が到来したものとして、相殺することができます。なお、この積金に、質権等の担保権が設定されている場合にも同様の取扱いとします。
- (2)前項により相殺する場合には、次の手続によるものとします。
- ①相殺通知は書面によるものとします。証書は届出印を押印して(または届出印を押印した払戻請求書とともに)通知と同時に当金庫へ提出してください。
- ②複数の借入金等の債務(積金契約者の当金庫に対する債務、第三者の当金庫に対する債務で積金契約者が保証人になっているもの)がある場合には充當の順序方法を指定してください。ただし、この積金で担保される債務がある場合には、当該債務から相殺されるものとします。当該債務が第三者の当金庫に対する債務である場合には、積金契約者の保証債務から相殺されるものとします。
- ③前号の充當の指定がない場合には、当金庫の指定する順序方法により充當いたします。
- ④第2号による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当金庫は遅滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方法を指定することができるものとします。
- (3)第1項により相殺する場合の利息相当額等については、次のとおりとします。
- ①この積金の利息相当額の計算については、その期間を払込日から相殺通知が当金庫に到達した日の前日までとして、利率は約定年利回を適用するものとします。
- ②借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知がに到達した日までとして、利率、料率は当金庫の定めによるものとします。また、借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取扱いについては当金庫の定めによるものとします。
- (4)第1項により相殺する場合の外国為替相場については当金庫の計算実行時の相場を適用するものとします。
- (5)第1項により相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続について別の定めがあるときには、その定めによるものとします。ただし、借入金の期限前弁済等について当金庫の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

### 第16条 取引の制限

- (1)当金庫は、預金者の情報および具体的な取引の内容等を適切に把握するため、預金者に対し、別途期日を定めて各種確認や資料の提出を求めることがあります。預金者が、当該依頼に対し正当な理由なく別途定める期日までに応じていただけないときは、本規定にもとづく取引の全部または一部を制限することがあります。
- (2)第1項の各種確認や資料の提出の求めに対する預金者の回答、具体的な取引の内容、預金者の説明内容およびその他の事情を考慮して、当金庫がマネー・ロンダリング、テロ資金供与、もしくは経済制裁関係法令等への抵触のおそれがあると判断した場合には、本規定にもとづく取引の全部または一部を制限することがあります。
- (3)日本国籍を保有せずに本邦に居住している預金者は、在留資格および在留期間その他の必要な事項をの当金庫指定する方法によって届出してください。届出のあった在留期間が経過し、正当な理由もなく別途定める期日までに新しい在留期間の届出をしていただけないときは、本規定にもとづく取引の全部または一部を制限することがあります。
- (4)前3項に定めるいずれかの取引等の制限についても、預金者からの説明等にもとづき、マネー・ロンダリング、テロ資金供与、または経済制裁関連法令等への抵触のおそれが合理的に解消されたと当金庫が認める場合、当金庫は前3項にもとづく取引等の制限を解除します。

### 第17条 通知等

届出のあった氏名、住所にあてて当金庫が通知または送付書類を発送した場合には、延着または到達しなかったときでも通常到達すべき時に到達したものとみなします。

### 第18条 規定の改定

この規定の内容については改定することがあります。改定をする場合、当金庫は、預金者に対し、改定内容を記載した店頭ポスターまたはホームページ等にて掲示する方法その他当金庫所定の方法によりこれを通知します。変更後に預金者がこの預金口座を利用した場合は、当該改定について承諾したものとみなし、以後、改訂後の規定を適用するものとします。

以上

### 15.(保険事故発生時における積金契約者からの相殺)

- (1)この積金は、満期日が未到来であっても、当金庫に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、当金庫に対する借入金等の債務と相殺する場合に限り当該相殺額について期限が到来したものとして、相殺することができます。なお、この積金に、質権等の担保権が設定されている場合にも同様の取扱いとします。
- (2)前項により相殺する場合には、次の手続によるものとします。
- ①相殺通知は書面によるものとします。証書は届出印を押印して(または届出印を押印した払戻請求書とともに)通知と同時に当金庫へ提出してください。
- ②複数の借入金等の債務(積金契約者の当金庫に対する債務、第三者の当金庫に対する債務で積金契約者が保証人になっているもの)がある場合には充當の順序方法を指定してください。ただし、この積金で担保される債務がある場合には、当該債務から相殺されるものとします。当該債務が第三者の当金庫に対する債務である場合には、積金契約者の保証債務から相殺されるものとします。
- ③前号の充當の指定がない場合には、当金庫の指定する順序方法により充當いたします。
- ④第2号による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当金庫は遅滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方法を指定することができるものとします。
- (3)第1項により相殺する場合の利息相当額等については、次のとおりとします。
- ①この積金の利息相当額の計算については、その期間を払込日から相殺通知が当金庫に到達した日の前日までとして、利率は約定年利回を適用するものとします。
- ②借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知が当金庫に到達した日までとして、利率、料率は当金庫の定めによるものとします。また、借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取扱いについては当金庫の定めによるものとします。
- (4)第1項により相殺する場合の外国為替相場については当金庫の計算実行時の相場を適用するものとします。
- (5)第1項により相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続について別の定めがあるときには、その定めによるものとします。ただし、借入金の期限前弁済等について当金庫の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

新 設

新 設

新 設

以上